

図書館だより

1990. 4. 20

第12巻1号

通巻113号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library

ことの葉
彩時記

種蒔く人

菱川 善夫

ものの種にぎればいのちひしめける 草城

春は種蒔きの季節。一冬の間しまっておいた蔬菜や草木の種子を種物なつものという。農家では家々に貯えるが、種物屋でも売っている。草花の種子などは、開花時の美しい絵のある小袋にいれられて花屋の店頭に並び、春の気分をかきたてる。

日野草城の句は、種袋からとりだした種子を手の中に握りしめている句だ。一粒一粒の小さな種子の中にも、爆発するようなエネルギーがひそんでいる。「いのちひしめける」はそれをとらえた。

バルビゾン派の巨匠、フランソワ・ミレーの作品に、「種蒔く人」(1850)の絵がある。肩からさげた種袋を左手でおさえ、右手を大きく振って種を蒔いている。県立山梨美術館で、私もその絵の前に立ったが、画面一杯に描きだされた農夫の姿には、大地に立つ巨人のおもかげが漂っていた。地に落ちる種子にも、いのちのひしめきを感じられたのは、日野草城のこの句が頭にあったからだろう。

崖上のオルガン仰ぎ種蒔く人

修司

寺山修司の「種蒔く人」も印象が深い。「崖上のオルガン」の響きは、宗教音楽のしらべを連想させる。その音を仰いで、作者は、きらめく種子を大地に蒔く。「種蒔く」行為は、「崖上のオルガン」によって浄められ、壮大な天上的世界の訪れを予

告する。青春とは、遠い崖上のオルガンを仰ぎながら、しっかりと大地に種を蒔くことだ。その認識がここにはある。

人生の春、人は敬虔な農夫——〈種蒔く人〉でなくてはならない。

寺山修司は模倣をきらった。

一粒の向日葵の種まきしのみ

荒野をわれの処女地と呼びき

修司

誰も鋤をいれていない大地に種を蒔いてこそ、荒野は処女地となる。太陽にも一粒の種を蒔くほどの夢がほしいものだ。

(ひしかわ よしお 教養部教授)



ミレー 種蒔く人



ハロー・ジャパン ①

キザー先生の学生時代

Richard D. Kizziar

When I was a university student, I was poor. I needed money, so I had to work part-time to make ends meet. After school, I could have been a cook or waiter in a cheap restaurant nearby. However, that would have taken me away from campus, and made my hours later. Another way was to apply for 'Financial Aid'. This system gives work to very *needy* students. The work was at school, but the salary was low, indeed, the minimum wage. The university liked this system because there were extra hands for work while half the salary was paid by the government. Supported by this system, I chose to work in the university library.

In fact, I used Financial Aid to help support myself at three different schools. I started at a junior college, Sacramento City College, where I worked putting each book back on the shelf. From there, it was easy to transfer to a proper university. I transferred to the University of California at Santa Barbara (UCSB). There I checked student identification cards and signatures so that other students could borrow books. Finally, I went to graduate school at Ohio University. There I operated the camera which puts books on micro-film.

I knew I would find the same system at each university. I was happy to work, while going to school, in the atmosphere that all university libraries have, even HGU. The wages were small, but who knows? Perhaps without it, I would not have succeeded.

(R. D. キザー 教養部講師)

♥アルバイトをしたことがありますか?♥

コックさん・ウエイター等々。

キザー先生も学生時代に3つの図書館で働いたことがあるんですって。

本を書架に戻したり、貸出図書をチェックをしたり、本をマイクロに写したりして……

『アルバイト代は安かったけど、図書館の雰囲気の中で働くのは楽しかった』って。

北海学園の図書館にも、そんな雰囲気あるかな？

新着図書 — 経済

豊かなアジア貧しい日本 中村尚司著/実証主義を超えて B. J. コールドウェル著/経済理論の歴史
4 M. ブローク著/マクロ経済学 上, 下 廣松毅 [ほか] 著/ミクロ経済学 武隅慎一著/現代
のアメリカ経済 石崎昭彦 [ほか] 著/衰退期のアメリカ経済 孤淵正晃著/ゼミナールアメリカ経済
入門 M. B. レーマン著/国際経済学入門 R. E. ケイプス/国際経済学 H. G. グルーベル著/サッ
チャーの経済革命 G. メイナード著/世界経済の深層地図を読む 水沢透著/21世紀の世界経済 K.
ニューランド著/国際経済の読み方 新飯田宏著/国際経済関係論 J. E. スペロ著/国際マクロ経済
学 須田美矢子著/入門国際経済学 渡部福太郎著/国際経済学 山本繁紳著/国際経済学 山沢逸平
著/現代経営学 4 大澤豊 [ほか] 編/経営者の哲学 C. I. バーナード著/西ドイツ経営学の新潮
流 G. シャンツ著/経営学要論 吉永雄毅著/日本企業の経営国際化 柴川林也編著/中小企業論
田中進著

「義理で書かねばならぬ原稿もある」



佐々木 正規

入試業務が終了し、来年度の卒業研究、講義の準備をしているところへ図書館のお嬢さんから電話が入った。

「お忙しいとは思いますが『図書館だより』の原稿をお願いできません？」

「年度末は何かと雑用が多くて忙しいから今回は勘弁して下さい。」

「でも、忙しいのは先生だけではないですよ。他の先生も私達もみんな忙しいんですよ。」

確かに、多忙だけでは原稿依頼を断わるにはいまひとつ説得力に欠けていた。加えて、一週間ほど前に義理チョコとはいえもらってしまったこともあって、引き受けざるを得なくなってしまった。話が決まると事務職員の方々の対応は素早く、早速その日の午後には図書館の職員の方がお二人原稿用紙を携えて研究室へお見えになられた。

「原稿の締切は三月二十日です。テーマはご自由にお考え戴いて結構です。」

原稿用紙を前にして何を書こうかと考えてみたものの適当なテーマも思い付かない。そこで、図書館とは何かと考えてみた。

「図書を集集し、それを人々の利用に供するところ」

これでは余り芸がないので「平凡社大百科事典」で「図書館」の項を引いてみると次のような説明が記載されていた。

「人類の知的所産である図書をはじめとする記録情報を収集・蓄積し、利用しやすい形に整序あるいは加工して、求めに応じて検索し、利用に供

する社会的機関をいう。

中 略

近年は、情報のデータベースとしての役割も果たすところから「情報センター」とも呼ばれる。」

これは、多少語句を言い換えるとコンピュータについての説明にもなる。図書館とは要するに

「情報を収集して提供するところ」

なのだと言える。昔は情報を収集・蓄積する手段としては「図書」しかなかったので、情報を収集蓄積するところが「図書館」と呼ばれたのだろう。蒸気機関車がディーゼル機関車や電気機関車に変わっても北海道生まれの人はJRを利用することを今でも「汽車に乗る」と言うのと同じことで、名称は昔のままでも内容は変わっていることは世間にはよくある。考えてみると、電子情報工学科の設立に当たっても「図書」ばかりでなくビデオソフトも学生の自習・自己啓発用に購入した。学習内容によっては「図書」を利用するよりもビデオソフトを利用の方が短時間で容易に理解が得られることもあると考えてのことであった。このとき、無意識のうちに「図書館へ行くと学生諸君が必要とする情報が得られる」ということが念頭に置かれていた。今後も「図書」とともにビデオソフトの充実が図られていくことと考えられるが、それらの資産が有効に利用されることを期待したい。

ちょっと苦いチョコレートではあった。

(ささき まさき 工学部教授)

法律 — (新着図書)

現代アメリカと政治的知識人 平田忠輔著／革命 中野実著／多民族国家中国の基礎構造 佐々木信彰著／相互依存時代の国際摩擦 山影進編／法的思考とはどのようなものか 田中成明著／実定法の基礎 石渡哲著／現代法社会学 黒木三郎編／基本判例 憲法25講 初宿正典編著／演習 行政法 塩野宏著／注釈民法 16 谷口知平〔ほか〕編／口述契約・事務管理・不当利益 田山輝明著／民法 2 一家族法 1 古田重明著／商法総則・商行為法要説 加藤勝郎編／判例マニュアル 刑法1 香川達雄編著／刑法講義総論 大谷實著／共犯論再考 大越義久著／判例マニュアル 刑法2 香川達雄編著／刑法要説各論 岡野光雄著／イギリスにおける罪と罰 柳本正春著／裁判実務大系 10／書式民事訴訟 高木佳子〔ほか〕著／音楽著作権の歴史 Ph. パレス著／標準 国際法 寺澤一〔ほか〕編／演習ノート 労働法 高橋保編



東洋文庫のすすめ (一)

小野 誠 二

「東洋文庫」は平凡社から1981年に刊行が開始され、その後10年間で約450冊が出されている。

この文庫は、アジアの古典の現代訳であるが、なにぶんにもアジアのものという制約から、読書の対象が限られていることは否めない。それゆえ、この文庫の刊行事業は容易ではなく勇気の要る仕事だと思われる。しかし、貴重な古典の宝なのであり、平凡社のこの文庫発刊の決意とその後の刊行の持続力には心から敬意を表したい。第18回菊池寛賞を受賞しているゆえんでもある。

たしかに、手易く手に取って読もうという意欲を起し難いけれども、何か求めることがあって当たって探してみれば必ず応えるいくつかのものが見つかるはずで、書庫に眠りっぱなしにしておくのは惜しい。読み出せば結構心をひかれるのである。

読まれることを願っているその願いの一助にもと、これから数回に亘って、限られた紙片ゆえ不十分ながらそのいくつかを紹介してみたいと思う。

(なお、東洋文庫に収められているもので東洋文庫以外に出版されているもので比較的手にし易いものが十数点ある。参考のためにそれらのいくつかを列挙しておく。『アラビアのロレンス』『往生要集』『東方見聞録』『今古奇観』『風土記』『長安の春』『将門記』『アラビアンナイト』『歎異抄』『日本霊異記』他)

さて、それでは今回は、王充の『論衡』を取り上げてみよう。

王充『論衡——漢代の異端的思想——』大滝一雄訳

この書は副題どおり、漢代の異端の書であり、儒学の、権力に利用されるような非実証的な概念的解釈、総じて虚妄な論に対する妥協を許さない反論の書である。

今からおよそ2000年以前に生まれた著者の王充は、学を修めたのち官吏の職をつとめあげてからいくつかの書物を世に出したが、現存している

のはこの『論衡』だけである。この訳書には、元々86篇あったもののなかで破損していない14篇だけが載っている。以下、王充が語るといふ形式でもっぱら紹介に終止する。

儒学には、漢代の董仲舒が説き出したような、天の意志が人間の意志を支配するなぞということでは書かれていないし、天の意志を占うことによって一切を解釈するなぞという神秘思想(「讖緯思想」)も述べられていないのに、当節は儒学のこのような理解が流行している。このことははかりで重さを計るように正しいか正しくないか見極めなければならない(=論衡)ことであるが、もちろん、わたしは反対意見を抱く者である。

このことを文を飾らずやさしい言葉で曲直をはっきりさせるという趣旨に徹して書いてみたい。

言いたいことは三つある。一つは「世俗のひとに実誠をつとめさせよう」ということ、二つは「世俗のひとに葬儀を簡単にさせよう」ということであり、三つめは学問知は先天的なものか後天的なものかということである。順に言っていこう。

わたしは、「官職にありついたからとて喜ぶでもなく、地位を失ったからとて恨むでもなかった」し、「安楽していても欲に流れることなく、貧苦のときも志のたゆむことはなかった」。わたしたちはめぐりあいというものに安んじなければならない。「昇進するもの、かならずしも賢明でなく、落されるもの、かならずしも愚かではない。」どのような境遇にあるかはめぐりあいというものだ。だから、「身を修め、行いを正したからとて、福を来させること」もできなければ、「びくびく用心したからとて、禍を避けること」もできないのだ。わざわざいふものは外から来るものであって自己の内からではない。「誠のことばによって患いを招き、気高い行いによって恥を招く」のは君子であり、それらを免れようとするのではない。

「儒者は、『天地はそのつもりで人を作り出した』などと論じているが、それはでたらめな言い草

だ。」「天と地が気（万物生成のもとである無形の感応体。物に対しての精気……引用者）を合わせて、人がたまたまおのずと生じたのである。夫婦が気を合わせて、子供がおのずと生まれるようなものだ。」植物を育てるに種まきなど人間の手が入るが、育つのは植物の気のためである。人間の力で育てることはできない。だから、「人の生死は寿命の長短により、行いの善悪には関係がない。」国の存亡も占いなどではきまらない。自然に逆うことはできぬ。「礼記」などに「君子は、風がはげしく雷がすさまじく大雨が降るときには、かならず態度を変える。」とある。天の怒りを恐れて、「夜であってもかならずおきあがり、衣服をつけ冠をかぶって正坐する」という。関係のないことだ。雷は雷自体で見当をつけずに落ちるのだ。「あやまちを罰するようなことをしないからこそ、ひとが恐れるのだ。」

自然を考えるに道家（老子の思想の流れを受け継ぐ学派で「無為・自然」を説く人たち）の考え方がよいようだ。つまり、自然とは物がおのずと生じることで、天が作るのではない。政治にあてはめて言えば、不治の治こそ求むべき道で、これが無為の道である。

孔子の言葉について言えば、相手が孔子だからといって何も遠慮することはない。「およそ学問の方法とは、才のないことを恐れず、大先生をなじりかえし、道を明らかにし義を正し、是非を判定することである。」たとえば、孔子は知恵の乏しく生まれついた者は「仁」（儒教の最高の教えである「思いやりの情」のようなもの）ではありえない、などと言っているがそんなことはない。

つぎに「葬儀」のことについて。そのためには「死」とは何かについて考える必要がある。世間では、ひとが死ねば「鬼」（亡霊）となると言うが、消えた火が燃えあがることがないように、死んだ人間は決して鬼にはなれない。気というものがあるが、この気は身体あって初めて働くものである。死ねば気は働かなくなる。だからこそ、ひとは死んで「ものを知ることもなく、口もきけ」ず、「他人に害を加えることもできない」のだ。死がこういうものであるからには、葬儀は簡略でよい（このような言い方はこの訳書では「直接」には言われていない。訳されていない「訂鬼篇」で述べられているらしい）し、墓にもあまり

気を使う必要がない。孔子は、母の墓が大雨で崩れたのをきいてはらはらと涙をこぼしはしたものの「『むかしは墓を修理するということはなかったものだ』といて、ついに改めて修理することはしなかった。……聖人はすべて見とおしであり、死者には英知のないのがわかっていたからだ。」

最後に、知識のことについてであるが、生れつき備わっている知識なぞありえようはずはないのに生れる前からわかっていたというようなことを言われるのは困ったことである。神ならいざ知らず、聖であっても学んでこそ聖なのである。「この聖も賢も、生まれながらに知るというわけにはいかず、耳目によって事態を把握するのだ。その耳目を働かさせるに当たっては、知ることのできるものならば考えるだけで決し、知ることのできないものならば問うてから解くのである。天下の事、世間の物で、考えて知ることのできるものは愚夫でもその核心をあばくことができるし、考えても知ることのできないものは、最高の聖人でも把握することはできぬ。」

王充が自ら、自らの著作を甚だ短絡的に語る形でその内容をまとめてみた。

解説で、「『論衡』の本領は、知識一般にたいする科学的な批判精神と、厳密な実証主義にあり、またその帰結としての、自然ならびに社会にたいする唯物論的な理解にある。」と語られている。わたしは、その思想的立場よりもなによりもまずこの書に溢れている鋭い批判的精神の覇気といったものに心打たれ、学ぶものを覚えた。自分の眼でも見ているその主体的で自由な態度は学問だけでなくすべてのことの出発点となるものだと感を得て深くもした。直接「行を追って」読むことをおすすめしたい一書である。易しく、おもしろくもある。訳者の功でもある。もし、読んだ甲斐があると思われたら、話とはぶかもしれないが、古代ギリシアの哲学者エピクロスの『エピクロス』と、その学派のルクレティウスの『物の本性について』（いずれも岩波文庫に入っている）を「勢い」で読んでみられたらいかかなものか。『論衡』から誘い出されるのと同じ感懐の湧くのを覚え、似たような内容を見出しもし、東洋と西洋との思想の比較ということにも役立つことになるのではなからうか。

（おの せいじ 教養部教授）

イーさん
ハーさん

日本滞在記



「随感」

イリシャト・ラヒム

私は、中国の北西に位置する新疆ウイグル自治区の区都ウルムチ市にある新疆大学から、1988年6月に北海学園大学工学部に研修生として参りました。あと3カ月ぐらいで2年になります。研修を終えて、帰国の日もいよいよ近付いてきました。帰国するという気持ちも一応強くなって来ました。

2年というのは長いといえば長く、短いといえば短い。時間という感覚はある程度、生活の楽しさ勉強の面白さ、その国、その国の民族に対する知識、感情等によって“長い”“短い”と感じるように思います。

私は日本に初めて来た時、緑の多さ、例えば山に茂っている木の多さに、日本人の大自然に対しての愛、懐しさを深く感じました。私のように乾燥、少ない緑、年間平均降水量はわずか200mぐらいの国から来たものから見ると、本当に自然に恵まれている人々だと思えます。自然の中へ、いろいろな所へ行ってみる。これも時間を短くする、一つの方法だと思えます。そしてこれも又、勉強だと思えます。

私は、動き回るの好きな方ではありません。それで、図書館を選びました。図書館の中も一つの大自然だと思えます。この自然の中で知りたい事が分り、好きな勉強ができるのです。図書館へ行くと時間は短くなります。

私が一番よく読む本は、やはり分りやすい本です。中公新書、岩波新書などの本と自分の眼で日本と、日本人に対する知識を増やしたいのです。“もっと日本と日本人の事をよく理解したい”そんな気持ちから、図書館によく行くようになりました。

定期試験が近いせいか、今日は学生の数が非常に多く席もないほどです。つい自分に言いました。“春だ!! そろそろ帰国の準備をしなくっちゃ”。

(中国新疆ウイグル自治区政府派遣研究員)

「図書館の役割について」

ハリクベク

われわれは毎日の生活の中でも膨大な情報を受け入れているが、特に、仕事・学習・研究などのあらゆる分野では情報なくしては、これらのことが遂行出来ないことは言うまでもない。そのことは、現代社会が情報化社会であり、多くの情報が溢れている社会になったためであると思われる。科学の発展と、急速な技術革新は情報量を絶えまなく増大させると共に、情報学の飛躍的な発展をもたらすことになった。これらの情報メディアの収集、提供、蓄積を行う機関、即ち社会装置は図書館である。情報の海の中で図書館利用者自身が必要な資料を探究する、新しい知識を吸収する、知識面を広くすることにより、知識の新階段を登り、この階段の上を出発点として更に高い知識、技術を開拓する等、学習・研究活動では図書館を広い範囲で旨く利用することが最も重要なことである。

現在、図書館の種類は色々あるが、その中で大学生と教員・研究者に対して最も重要なのは大学図書館である。即ち、ある意味では大学図書館は大学の教育研究の中核であり、大学の心臓と呼ばれる所以はここにあるのである。そして膨大な情報(資料)を蓄積した図書館から自分の必要なものを探し出すために、図書館を効率よく利用するためのテクニックを把握することが大切なことである。しかしこのテクニックには決定的な形はなくさまざまであるから、実際の活動の中で試行錯誤をすることにより、自分独得の図書館利用の技術を身に付けることが一番大切なことであると思はる。

(中国新疆ウイグル自治区政府派遣研究員)

気楽に読もう

「うさぎの生態研究読本」

うさぎの暮らしも楽じゃないのだ

「ウォーターシップ・ダウンのうさぎたち」

リチャード・アダムス著 評論社 1989

この物語は、野うさぎが新天地を求めて旅し遭遇した数々の冒険談である。そして、寓意を含んだ大人の為の文学でもある。

ここに出てくるうさぎ達は、「ピーターラビット」のように家具や食器の揃った家に住んではいない。牧歌的で平和な暮らしをしているわけでもない。本物の野生のうさぎ達なのだ。だから彼等は自分達で掘った穴蔵に住み、きつねや犬、猫、人間などの天敵を警戒し、草葉を食べて生きている。唯、この物語では彼等は言葉を持っている。我々人間と同様に考え記憶し会話する。神、死神、リーダー、妻、子供、予言者、神話、英雄譚、そして善悪を解し、秩序を持ち社会を形成する。それゆえに野うさぎが食糧を求め、住み良い土地を求める切実な動機は一層浮き彫りにされる。彼等の生死を賭けた冒険の旅がわずか数キロの範囲で起きたこと、寿命が2～3年であること、我々の世界に比べ野うさぎ達の世界は余りに小さく、はかない。その中で彼等は精一杯生きているのだ。

この物語を読んだ後では、うさぎに向かって「キャ～！ かわいい～！」などと叫ぶより、「おい、頑張れよ！」と声を掛けたくるのである。

(◎ 赤マント)



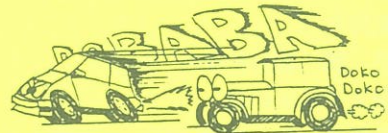
「オートマチック車のドライビング」

池田英三著 山海堂 1986

自動車の運転免許を持っている人なら判ると思いますが、教習所で習い始めた当初は「エンスト」は日常茶飯事です。エンジンが止まる度に、ただでさえムツとくる指導員の冷やかな軽蔑の視線を感じながら、スターターを回した経験をお持ちだと思います。そんな時、頭に浮かぶセリフ——「クソッ！ 絶対にうまくなってやるぞ。」あるいは「フン！ 免許取ったらオートマチック買うからいいわよ。」

後者の方、そう、あなたにお薦めしたいのがこの本です。「この本を読んであなたも今日からオートマチック通。」

(暴走赤マント)



「日本の湖沼と溪谷 全12巻」

ぎょうせい 1987

本全集は、日本の湖沼と溪谷が点在する北は北海道から南は沖縄まで、12の地域に分けて、写真と文で綴られている。

単に、四季折々の大自然の景観を満喫するだけではなく、その地域ならではの地理的特徴・動植物そして湖に纏わる神話・民話・伝説など多面的にとらえ魅力あふれる内容である。本文中には、有名なカメラマン・詩人・作家・地名研究家など、各界の方々によるエッセイ・探訪紀行等を多数掲載されている。各巻の巻末には、その地域の代表的な湖沼と溪谷の他に湿原・滝などの特徴等をまとめたリストが付されている。

(U)

書遊録

椎名誠は
大写真家??
これは写真集の
紹介なのだ!



風の国へ 椎名誠

皆さん、図書館にはたくさんの写真集があるのをご存知ですか。勉強に疲れた時、失恋して悲しい時、美しい風景、可愛らしい草花を眺めて、目と心を和ませて下さい。

- 少年の夏
椎名 誠 徳間書店
- シベリア夢幻
椎名 誠 情報センター出版局
- NECKLACE ISLAND
椎名 誠 巖々堂
- 海を見にいく
椎名 誠 木の雑誌社〔Sh 32〕
- 風の国へ
椎名 誠 朝日新聞社〔Sh 32〕
- 駱駝狩り
椎名 誠 朝日新聞社〔Sh 32〕
- 英国スタイルの花
諸泉陽子 後 勝彦(写) 光文社〔Ma 76〕
- 百花有情 前田真三写真集
グラフィック社〔Ma 26〕
- 尾瀬讃花一新井幸人写真集
ぎょうせい〔A 62〕
- 写真花 源氏物語
田辺聖子 光村推古書院〔Ta 83〕

図書館展示会のお知らせ

平成2年4月1日～5月31日まで下記のテーマで展示中です。ぜひ、ご覧ください。
テーマ：「春…^{つくりはじめ}創始のとき 雑誌創刊号展～日本の雑誌創刊号100種～」
(図書館さかくNo.8)

◎資料配布中；近代雑誌創刊号と世相略年表
場所：1F自由閲覧室

ポスター

春…^{つくりはじめ}創始のとき
雑誌創刊号展

～日本の雑誌創刊号100種～

◎資料配布中；近代雑誌創刊号と世相略年表

図書館展示さかくNo.8
→1階1F自由閲覧室
期間：2/1～2.6.31

創刊号：たよび一

★ア・ゾーリン・パンク(文芸2年・1852) / 外国人向け神楽風歌謡選集誌(博通)

★西4雑誌(徳和3年・1857) / 近代西洋書中雑誌(西洋事情紹介)

★朝六雑誌(朝7) / 徳和雑誌(朝10) / 女子雑誌(朝18年) / 日本人・神20 / 土曜(朝28) / 本の屋(朝30)

★平報新聞(朝36) / 朝報(朝44) / 近代思想(大光) / トルストイ研究(大5)

新青年(大9) / 文藝春秋(大12) / 電報(朝3) /

★オーラ誌物(朝6) / 加性(朝13年) / 新志(朝20) / 世界(朝21)

ジュリスト(朝27) / 北海道大学経済雑誌(朝28) / 文藝春秋選集誌(朝29)

朝日ジャーナル(朝34) / 読者(朝44) / Newton(朝56) etc. 100 種

新着図書 — 教養

図書館の自由と知る権利 渡辺重夫著 / 図書館の戦後 住谷雄幸著 / 哲学の課題 藤沢令夫著 / 自己の探求 中村元著 / フランス啓蒙思想の展開 安藤隆穂著 / 理解とふれあいの心理学 根本和雄編著 / 心理学キーワード 田島信元編 / 知能の心理学 J.ピアジェ著 / 創造力開発の秘術 中山正和著 / 「うらみ」の心理 山野保著 / 倫理学概説 中野重伸著 / エジプト神話 V.イオンズ著 / 『般若心経』の研究 長谷川洋三著 / 修験道・実践宗教の世界 久保田展弘著 / 良寛全集 大島花束編著 / 昭和史一国民のなかの波瀾と激動の半世紀一 金原左門編 / 西洋中世の罪と罰 阿部謹也著 / 古代ローマへの道 H.シュライバー著 / 資料フランス革命 河野健二編 / フランス革命 柴田三千雄著 / カナダ自治領の生成 木村和男著 / 自然保護事典 1 全国自然保護連合編 / 江戸東京・街の履歴書 班目文雄著 / 国家試験のすべて 90年版 資格問題研究会編 / 社会学者の肖像 浜口晴彦著 / 不適応と臨牀の社会心理学 M.R.リアリー著

施設探訪 — 札幌市立図書館 その1 —

札幌市の図書館は明治32年、当時の北海道教育会が大通り西4丁目に付属図書館を開設したのに始まります。明治44年には時計台に移転、昭和18年に軍に建物を接収され閉鎖するなど大きな犠牲と苦勞を代償に現在の発展がありました。

整備が本格化するのは戦後、昭和25年に市立札幌図書館条例が公布されて以降のことです。現在の中央図書館は昭和25年5月、時計台内に開設しました。

その後、中央館は昭和41年に現在の中央区北2条西12丁目に新築移転し、同時に「札幌市立図書館」と名称変更をして現在に至っています。

特に昭和47年の政令指定都市以降は1区1図書館構想を新札幌市長期総合計画の第2次5年計画に盛り込み、菊水図書館や山の手図書館の開設をはじめ次々と建設計画を実現してきました。

また、昭和57年には利用者サービス向上や業務

の省力化のため公共図書館ではいち早くコンピュータの導入に取組み、地区図書館間の電算化計画を昭和62年度にすべて完了しています。更に手狭になった中央館では昭和61年から新館建設計画の策定に着手、平成元年度に着工、来春には旧教育大学跡地（中央区南23条西14丁目）に完成の運びとなりました。

これら積極的な図書館活動は、単に施設提供にとどまらず全市民の幅広い文化的な生活への足がかりとして貴重な存在であり、所蔵資料の数や入館利用者数で知ることができます。

このシリーズでは、市内に点在する札幌市中央図書館、地区図書館の所在地などを皆さんにご紹介し本学図書館とともに身近にある公共学習施設を有効に利用して頂くための手がかりにして頂こうと思います。

	施設名	所在地	電話	蔵書冊数	うち一般書
1	中央図書館	中央区北2条西12丁目	231-8581	284,848	243,306
	子ども図書館	中央区北2条西12丁目	271-3030	29,000	
2	新琴似図書館	北区新琴似7条4丁目	764-1901	72,886	51,314
3	元町図書館	東区北30条東16丁目	784-0841	67,087	47,701
4	菊水図書館	白石区菊水1条4丁目	824-2801	72,471	52,581
5	厚別図書館	白石区厚別中央1条5丁目	894-1590	62,896	44,787
6	西岡図書館	豊平区西岡3条6丁目	852-8111	73,382	52,049
7	澄川図書館	南区澄川4条4丁目	822-3730	70,883	50,359
8	山の手図書館	西区山の手4条2丁目	644-6822	64,467	44,548
9	曙図書館	西区曙2条1丁目	685-4946	54,240	37,799
開館・休館案内	【開館時間】				
	(火)	午後1時00分～午後5時15分			
	(水～日)	午前8時45分～午後5時15分 *夜間開館：中央館のみ(水～木)午後7時まで			
【休館】	月曜日・国民の祝祭日・月末日・年末年始 図書特別整理期間				

(資料出典：1989年版 札幌の図書館)

教養 — 新着図書

教養が、国をつくる。 E. D. ハーシュ著／原典・西洋近代教育思想史 岩本俊郎編／中世の饗宴 M. P. コズマン著／ガロワと方程式 草場公邦著／ベクトル解析のはなし 田村二郎著／化学の法則45話 北原文雄著／宇宙と生命のタイムスケール 原田馨 [ほか] 著／地球の探究 大原隆 [ほか] 編／植物生理学入門 桜井英博 [ほか] 著／食品汚染 若月俊一 [ほか] 編著／森林生態学 堤利夫編／《森林社会学》宣言 内山節編／アラウンド・ザ・ムービー 森卓也著／バトル・オブ・ブラジル—「未来世紀ブラジル」ハリウッドに戦いを挑む— J. マシューズ著／「森の石松」の世界 橋本勝三郎著／日本文法小事典 井上和子編／古代うた紀行 中西進著／芭蕉・シェイクスピア・エリオット 西協順三郎著／半七は実在した 今井金吾著／なぜか、海 永山則夫著／看板物語 平林規好・文／中勤助全集4, 5／死がお待ちかね B. ロベス著／アメリカ人はどう生きてきたか W. E. ウッドワード著／Tree C. W. ニコル著

ホームズとルパン、遊びで読むと…

アルセーヌ＝ルパン全集 全25 偕成社

余り探偵ものや冒険推理ものを読まない人でも、イギリスの名探偵シャーロック・ホームズや、フランスの怪盗紳士アルセーヌ・ルパンを知らない人は少ないだろう。特にホームズの人気は尋常ではない。シャーロックアンと呼ばれる熱狂的なファンが世界中におり、彼の住んでいたベーカー街221番地には、現在でも事件依頼の手紙が届く。さらに、それを処理する専任係員が居るといふから驚きだ。

何かと比較され、対決までさせられてしまう二人であるが、彼等の誕生の裏側には、意外な類似点があると言う事は御存知だろうか。

ホームズの作者コナン・ドイルは流行らない開業医で、暇に任せて売れない歴史小説を書いていたし、ルパンの作者モーリス・ルブランも、やはり知識階級向けの心理小説や純文学ばかり書いていた。共に専門家にしか評価されない作家であったが、そんな中でふとした切っ掛けから生まれたのが、後の名探偵であり、怪盗紳士だったのである。

結果、どちらも大いに人気を得る事となったにもかかわらず、彼等はその執筆活動の最後まで、自分の目指す小説は他にありと考へ続け、望まずして書いた主人公達が独り歩きしていくのを、作者達は戸惑いの中で眺めて居たのである。

では、意に反して生まれたはずの探偵と怪盗が、多くの大衆を熱中させたその魅力とはどのようなものなのか。

ホームズは、鋭い頭脳と並外れた精神力の持ち主である。フェミニストで、時に情緒不安定で皮



肉屋にもなるが、その後は必ず優しい紳士に戻る。気難しい様で煽てに弱い単純さも、愛すべきところだ。

ルパンの方は楽道家で女性に優しく、頭脳明晰、あらゆる武道の達人である。美人に弱く、やや惚れっぽい所は弱点と言えるかもしれない。しかしホームズに勝るとも劣らない強靱な精神力は、逆境に立つ程にその能力を発揮する。

ホームズに於ける精神力は彼の知性と理性がそれを支え、逆にルパンのそれは彼の感性と本能が創り出す。これが二人の最大の魅力ではないだろうか。

今回排架する偕成社のルパン全集は、既に書架に並んでいる東京図書のホームズ全集と合わせて、気軽な遊び心で楽しみながら読んで貰いたい。

(R)

新着図書 — 工学

C言語によるマトリックス演算 森博嗣著／音響工学 城戸健一著／低温物理入門 P. V. E. McClintock「ほか」著／理工学基礎 物性科学 坂田亮著／古地震 統一実像と虚像一 萩原尊禮編著／マトリックス法による構造解析 青山博之 [共] 著／技術開発論 斎藤優著／土木工事設計・施工ハンドブック 東京工学研究会編／洪水の数値予報 日野幹雄 [ほか] 共著／アート・キッチュ・ジャパネスク 井上章一著／建築構造力学演習1, 2 谷資信著／建物の火災と安全のはなし 牟田紀一郎著／住まいと音 岡山好直著／建築紛争の実際 岡本辰義著／デジタル信号処理 宮川洋 [ほか] 著／デジタルオーディオ事典 日本オーディオ協会編／基礎アナログ電子回路 平野浩太郎著／知識工学入門 上野晴樹著／デジタル画像処理入門 G. A. バクシー著／画像処理装置とその使い方 丸谷洋二 [ほか] 著／音声のデジタル信号処理 上, 下 L. R. Rabiner著／コンピューターを創った天才たち J. N. シャーキン著／BASICプログラミング入門 平山静夫著／マスターCハンドブック C. Bolon著／コンピュータ・グラフィックス 水上孝一著／CGハンドブック 日本図学会編

ツーカー 倶楽部

●解説 山根 対助（教養部教授）

俳句は日本が世界に誇る伝統文芸であるが、芭蕉が弟子たちと一筋の道をきわめようとしていたのは連句なのである。俳句ではなかった。

明治に入って、正岡子規の俳句革新によって連句は息も絶え絶えのところまで追いこまれた。近来、復活のきざしを見せているが、私は昨年度の教養ゼミで六人の学生諸君に連句実作の指導をした。連句にはいろいろの規則はあるが、今回は発句を高名な俳人の句に借り、あとは「不即不離」ぐらいにとどめ、かなり自由に作ってもらった。その中から一作品をお目につけよう。

連句・半歌仙

「すずらん」の巻



すずらん <small>に</small> 憩ふ乙女の肩見ゆる	水原秋桜子
ただ懐かしく軟らかき風	西原秀欣
赤とんぼ子等を後から追ひかけて	山本優美
棠山子はひとりからすの見張り	宮崎貴弘
水面に揺らめく月を掬はんと	優美
そば屋の酒に頬染める人	山崎正人
野分してバケツはからり野良の犬	達哉
落葉のやうに転がりし恋	今井一登
冬の虹空に描いた夫婦夢	正人
春雪ふわり星影きらり	萬達哉
帰り道どろにまみれてたにし取り	優美
舞ふシャボン玉光の野原	秀欣
ビールつぎ故郷の波のかたちかな	貴弘
響 <small>な</small> る風鈴にみどり児かへる	優美
星合や星を羨やむひとりもの	貴弘
木の子探して札束拾ふ	優美
主婦の敵肌荒れの素冬の水	正人
凍裂ひびくわれの郊か	貴弘

『男は20代に何をなすべきか』

鈴木健二著 大和出版

経済学部3年 住吉功成

男が20代に経験することは一生のうちで最も重要な位置を占めているのではないかと思います。多少、誇張して言っているかもしれませんが、20代に差し掛かった者としては、いささか不安と戸惑いを覚え、また過去の生活を振り返ってみても、自信があるとは言えません。そんなこともあって思わず手にとった本が、その名の通り『男は20代に何をすべきか』です。

他に有無を言わせぬばかりのこの題名に、気の弱い私は思わず手にとってしまいました。が、しかし、そこには、わずかながらの反発もあり、『こんな題名をつけたのだから、それ相当のことが書いてあるのだろうな』とか、また『こんな本を読む気になった自分も情けない』とか。とりあえず目を通して見ることにしました。

「大学をレジャーランドにするな」「輝かしい春

青であったか？」などドキッとするような50の項目に分かれています。

私のような者にはこの内容は決して愉快なものではなく、最初の3～4ページで両頬にピンタをくらい、次の5～6ページに至っては正座することを余儀なくされるなど、今までの生活に多少後ろめたさを感じている人にとっては、苦痛の書であります。しかし毎年5月病のような生活を送っていた人にとっては、残された学生生活にカツを入れる意味でいいと思います。

しかしこの本で一番重要なことは、『男が20代に何をなすべきか』なのです。女性がますます男らしくなっていき、男は男らしさの本質をとり違えつつある今、20代に男がしなければならないことの最少限を指南してくれるでしょう。

(すみよし こうせい)

世界の遊戯・遊戯の世界 ①



東莞牌

大谷通順

麻雀とブリッジ

かつて学生街に軒をならべた麻雀荘は次々に看板をおろし、残った店の窓越しに聞こえる牌の音も心なしか景気がない。しかしその一方で、騒音に満ちたゲーム・センターでは、コンピューター・ゲームが新しい世代に同じ遊戯を伝えている。麻雀のメカニズムはメディアをかえて、いままなお日本人の心をとらえつつけているらしい。

この遊戯がヨーロッパにはじめて紹介されたのは19世紀末、またアメリカと日本に普及したのはつい60年ほど前のことである。3000余年にわたって中国の文化が周辺諸国におよぼしてきたもろもろの影響のなかでは、歴史のごく浅いものに属する。

世界各地の遊戯には、中国で誕生あるいは成長したと目されるものが少なくないが、なにしろどの国においても末技として軽んじられ、倫理的墮落を招くという理由で禁じられた分野なので、記録は乏しく、古いものになると遊戯法すらわからない。麻雀のように氏素性の明らかなものは稀なのである。また冒頭で述べたように、当の麻雀でさえわずか2世代のあいだに日本文化に根をおろし、古くは囲碁・将棋、少し新しいところで花札がそうであったように、日本的な変容を遂げ、異国の臭いを失いつつある。なるほど古い遊戯の起源の探索が困難になるのも無理はない。

それでもなお麻雀のメカニズムには中国文化の特徴が強くあらわれている。言語の面からいえば、孤立語とよばれる中国語の、ちょうど石組みだけでピラミッドを建てるような文構造や、たとえば漢詩の対句などに典型的にあらわれるシンメトリカルな伝統的修辭法がそれである。思想の面からいえば、『易』などに特徴的な、現象の類型的分析

方法(次号を参照)をあげるべきであろう。

このように中国文化の特質を体現するかのように見える麻雀が、欧米のカードゲームを代表するブリッジと親戚関係にある、という奇異に聞こえるかもしれない。しかし、欧米のカードは14世紀末にいつこからかヨーロッパにもたらされたものらしく、その伝播ルートを遡行し、沿線の各地のカードゲームの形態を比較していくと、どうしても終点は中国にぶつからざるをえないのである。

麻雀牌の原型は、文献上は明代中期(15世紀後半)の“馬掉牌”というカードゲームまでさかのぼる。一方、ブリッジは19世紀末に考案された新しいゲームであるが、若干の新機軸が導入されただけで、遊戯法の基本原理はカード伝来当時と変わらない。その最古の形態および遊戯法は、スペインやイタリアのカードに保存されている。詳細な点についてここでは省くほかないが、馬掉牌とこれら古いカードとを比較対照してみると、カードの形態から細かな遊戯法にいたるまで数々の類似点が発見され、それによりかつて両者のあいだに何らかの関係が存在していたことが示唆されるのである。

ところで馬掉牌や麻雀は“亡国の遊戯”として、各朝代でたびたび禁令の対象となった。社会主義中国でも、麻雀の禁が解かれたのはつい5年ほど前のことである。その反対に、周知のように、鄧小平を中心とする共産党の老幹部たちの偏愛によって、ブリッジ(中国語名“橋牌”)は政府公認の“体育”競技として保護されてきた。長い歴史のなかでは皮肉なことが起こるものである。

(おおたに みちより 教養部講師)

編集後記

●世の中外国語ブーム、そんな訳でもないのですが、「だより」初体験の英文エッセイを書いたいただきました。辞書なしで挑戦!を。●情報源としての図書館が益々重要になって来ています。●打てば響く図書館にと思い「ツー・カー倶楽部」を設けました。ご意見、詩、エッセイ、などなど投稿をお待ちしています。

北海学園大学附属図書館報 図書館だより

Vol.12 No.1.(通巻113号)

本館 〒062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号
工学部分室 〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
☎(011)841-1161
本館内線 270~275・279
工学部内線 813・814